

学校だより



みなみたなか

平成25年7月19日
練馬区立南田中小学校
校長 梶谷 雅弘

一学期前半の指導を終えて

校長 梶谷 雅弘

6月28日に、区内の大泉第一小学校で、児童が襲われるというあってはならない事件が発生しました。本校では、外部からの不審者侵入防止対策として、5月より実施していますが西門以外の門は施錠をし、入り口を一つとしています。また、休み時間には、看護当番の教員が校庭に出て、安全確保に努め、空き時間の教員は、校舎内を巡回する。安心安全ボランティアの皆様にも校庭も見てください、教職員は、校内で来校者に会った場合は、必ず一声掛けるようななどの対策を実施しています。

今回の事件で一つ反省点として、情報の共有化が指摘されています。不審者情報等を学校で集約し必要に応じて、警察や教育委員会とも相談し情報を発信して参ります。

何かご心配なことや不審者情報・児童の安心安全に関わる情報がございましたら、ぜひ、学校にお知らせいただきたいと思います。引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

さて、保護者の皆様からの絶大なご支援により、本校では、落ち着いて教育活動を進めて参りました。みんな学級の軽井沢宿泊学習や6年生の武石移動教室で、その指導の成果が発揮され、充実した思い出に残る行事を実施することが出来ました。

その一端を紹介します。みなみ学級の宿泊学習最終日の閉校式では、3年の児童が司会を担当し、6年児童が挨拶をしましたが、実に見事に出来宿舎の方々が絶賛していました。

6年移動教室3日目のお別れ式では、相手校の代表児童が挨拶の際、言葉に詰まってしまいましたが、本校の大勢の児童から「頑張れ」という温かい励ましの声が上がりました。その言葉に勇気づけられ、挨拶を済ませました。

相手校の引率者が、「自校の児童には、けなすような雰囲気がありました。相手校から励ましの言葉を掛けていただき、感激しました。本当に優しい子供たちですね。有り難うございました。」と感心していました。

これらは、日ごろ落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送る中で、一人一人が身に付けてきた思いやりや実践力だと重めます。

本校の児童を誇りに思うと共に、保護者の皆様や地域の皆様のご支援に深く感謝をしています。これからも、ご支援よろしくお願い申し上げます。

本校の教育活動を高く評価していただいています。

「子どもの読書活動優秀実践校」として、去る平成25年4月23日（火）に開催された「子どもの読書活動推進フォーラム」にて、「文部科学大臣表彰」を受賞しましたが、文部科学省のホームページ「子どもの読書の情報館」で紹介されることになりました。受けました。

平成25年8月1日・2日に宇都宮市で開催される全国学校図書館協議会関東大会で、本校の実践を東京都の代表として発表する機会を頂いています。

また、東京都教職員研修センターで開催される夏季集中講座『言葉の力』を育む教育の実践で、本講の実践を紹介したいので資料を提供して戴きたいとの依頼がありました。さらに、全国学校図書館協議会発行の写真ニュース「としょかん通信」の方から連絡があり、取材の申込みもありました。

このように本校の区立南田中図書館と連携した教育活動につきまして、高い評価を戴いていることを再確認いたしました。

WFPエッセイコンテスト2013への応募をお待ちしています。

昨年度も落合教諭を含め71名の作品を応募し、2130円の募金を行いました。

日本全国から、6160名の応募があったそうですが、応募者の内、100人に1人以上が本校の関係者でした。4年生以上の児童に呼びかけましたが、保護者の皆様の中で、賛同いただける方のご応募をお待ちしています。で

世界では8人に1人が飢餓に苦しんでいます。

国連WFPは、途上国の貧困に苦しむ子どもたちに、学校給食を提供しています。

日本の子どもが給食やお弁当で支えられてきたように、世界の子どもも給食の力を必要としています。本エッセイコンテストでは、給食(お弁当)の思い出を皆さんにつづっていただきます。多くの人にとって身近な給食やお弁当について考えることで、

それらが持つ様々な意味が見えてくるのではないのでしょうか。

同時に「飢餓」の問題にも関心を持ていただければ幸いです。

応募1作品につき、給食1日分(30円)が、

協賛企業のご協力により国連WFPに

寄付され、学校給食支援に役立てられます。

ぜひご応募ください。



©WFP/Re in Skuterud